

CONTENTS

- 春季企画展 日本とロシア ―箕作阮甫・秋坪の対露交渉― …… 2
第71回文化講演会報告 …… 3
洋学資料館の夏休み教室開催・NEWS FILE …… 4・5
夏季企画展 言の葉の海へ ―オランダ語翻訳に挑む― …… 6
久原躬弦関係資料、化学遺産に認定!! …… 7
INFORMATION (催し物のご案内) …… 8

洋学 資料館

No. 18

September, 2016

難波抱節先生墓塔
江戸時代の文壇、蘭学大家老日置家の侍医でもはばば
京都で内科医科、兼蘭塾で外科を学び、後に練方洪庵に
後援を学んで蘭塾で初めて実施し、吉備三國の内にてコレラ
の名匠と知られた。安政六年(一八五九)にコレラ大流行
治療に奔走ついに感染して歿す。
法名 清風軒抱節居士(左側)
清林院妙智光大塔(右側)
津山文化協会
津山ワンダークラブ

ここは金川にある難波抱節の墓所です。抱節は、吉益南
涯や賀川蘭齋、華岡青洲に学び、学塾思誠堂を開いて
千数百人の門人を育成した名医といわれ、美作からも
多くの医師が入門しています。1850(嘉永3)年、緒方
洪庵によって足守に天然痘予防の牛痘種痘がもたらされ
た時には、洪庵から痘苗を譲り受けて金川で三千人余り
に種痘を行ない、幼児を天然痘から救ったのでした。
しかし、1859(安政6)年に全国的に流行したコレラの
患者を診察中、自らも感染して69歳で亡くなりました。
抱節夫妻が並んで眠る難波家の墓所からは金川の家並み
が見え、今でも二人でこの町を見守っているようです。
(岡山市北区御津金川)

写真提供：下山純正 氏



津山洋学資料館
TSUYAMA ARCHIVES OF WESTERN LEARNING



イサベル・田中
ファンダーレン先生



春季企画展
日本とロシア — 箕作阮甫・秋坪の対露交渉 —

会期：平成28年2月20日（土）～6月19日（日）

第71回 文化講演会
「出島における黒坊について」
講師 東京大学史料編纂所共同研究員
イサベル・田中・ファンダーレン先生

4月23日（土）、イサベル・田中・ファンダーレン先生を講師にお迎えし、第71回文化講演会を開催しました。先生は日蘭関係史が専門で、現在は主に出島のオランダ通詞について研究されています。

今回のご講演では、オランダ人の召使として出島に滞在し、「黒坊」と呼ばれた人々についてお話いただきました。彼らはインドやインドネシアの出身で、オランダ人よりはるかに多くの人が出島に来訪していました。しかし、奴隷身分であったため、あまり記録が残っておらず、今でもその存在や役割についてはよく知られていません。

先生は、出島を描いた絵巻を通して、彼らが料理や給仕、裁縫などでオランダ人の日常生活を支えていたこと、貿易業務の手伝いもしていたこと、そして楽器の演奏などによって、日本人とオランダ人の交流を円滑に進めるための大切な役割を担っていたことを紹介されました。彼らの存在は、日本人にとって異国情緒を感じさせるものであり、版画や工芸品にその姿が描かれています。長崎を訪れた蘭学者らの記録にも登場し、その境遇について同情的に記されているのだそうです。

奴隷制は現代まで繋がる難しい問題で「黒坊」も差別的な用語ですが、江戸時代の史料に使われている言葉であるため、今回はあえて演題に使ったことを先生は説明されました。そして、歴史を研究する人間は、過去を調べて正しく認識し、皆へ伝えることが、問題解決への第一歩となる、彼らについてもっと目が向けられるようになることを願っています、とお話を締めくくられました。

江戸時代の日蘭交流というとオランダにばかりに注目してしまいがちですが、それを支えた人々がいたことに気付かされ、参加された方々は真摯な面持ちでお話に聞き入っていました。

1853（嘉永6）年、ロシア海軍提督プチャーチンが、日本との開港交渉を行うために長崎へ来航しました。その応接使節の一員として、津山藩医箕作阮甫が派遣され、外交文書の翻訳や、交渉における助言などをしていました。また、阮甫の養子秋坪は、幕末に2度ロシアを訪れ、国境交渉に携わりました。本展では2人の業績を中心に、日本とロシアの関わりを紹介しました。

ロシアと日本は近い場所でありながら、遠い存在でした。日本との交易を願っていたロシアはたびたび、使節を派遣してきましたが、そのつど日本側に拒否されてきました。

1852年、日本との交渉担当を命じられたプチャーチンは、過去に出島のオランダ商館医を勤めたシーボルトの勧めに従い、紳士的な態度を見せるため、当時日本唯一の西洋との窓口であった長崎へ来航しました。旗艦バルラダ号のマスストに「おろしや国」と日本語で記し、日本人を刺激しないようにして入港します。そして、江戸から派遣された使節と交渉を開始しました。

初回の来航時には交渉はまとまらず、翌年、プチャーチンは再来日します。ところが、伊豆下田で交渉を始めてまもなく地震が発生し、新たにロシア使節の旗艦となったディアナ号は津波により損害を受け、沈没してしまいました。日本とロシアの交渉は、失ったディアナ号の代船を建造しつつ行われ、ついに1854（安政元）年12月に日露和親条約が締結されました。

この条約の締結後、1858（安政5）年には日露修好通商条約が結ばれ、通商はスタートしましたが、両国間の国境については妥結に至りませんでした。そこで、1861（文久元）年と、1866（慶応2）年の二度にわたり、幕府はロシアに使節を送ります。この両方に箕作秋坪は通訳として参加しています。

企画展を見学して、幕末の日露交渉の裏方として箕作阮甫・秋坪が活躍したことを知り、津山の洋学者たちが日本の近代化に果たした役割に、改めて感心された方がたくさんいらっしゃいました。

洋学資料館の夏休み教室開催！

資料館が新館に移転して迎える7回目の夏。今年も夏休み教室を開催しました。毎年参加される方が多くなり、夏の行事として定着してきたことを感じます。
先陣を切って7月30日(土)に親子でヒンデローペンの作品づくり、31日(日)に一般向けのヒンデローペン絵付け体験教室を開催しました。今年は、トレイやボールペンに挑戦し、トレイはオランダのナシヨ

ナルカラーであるオレンジをベースに、バラやチューリップ、ダリアなどの模様を下書きに添って描きました。
ボールペンは下書きをせず、筆遣いだけで桜の花びらを表現します。最初にポストカードで練習をして、本番のボールペンへ。参加された皆さんは、真剣な面持ちで取り組み、個性豊かな、世界に一つだけの作品を仕上げ、笑顔になっていました。



NEWS FILE

オランダ総領事からヒンデローペン作品受贈



7月20日(水)、在大阪・神戸オランダ王国総領事館のローデリック・ウォルス総領事が来館され、ヒンデローペンで装飾された缶を寄贈してくださいました。ヒンデローペンは、オランダ北部の小さな港町ヒンデローペンで16〜17世紀から続いている伝統的な絵付け技法で、資料館の展示室も永江絹子先生が描いたヒンデローペンで装飾されています。ご寄贈いただいた作品は高さが75cmもある大きなもので、とても迫力があります。現在、スポット展示コーナーで展示しています。



貴志先生

廣木先生



8月6日(土)には、江戸時代の化学書からの再現実験教室を開催しました。今回は「ものの正体―物質―つてなに？」と「温泉水を分析してみよう！榕菴先生と長寿の水？」の2つの実験を行いました。

「ものの正体―物質―つてなに？」は津山高専の貴志先生と同校科学部の皆さんの実験です。私たちの身の回りを取り巻く様々な物質はすべて原子からできており、それぞれ固有の性質があります。宇田川榕菴は『舎密開宗』の中で、試薬を用いて色々な元素の性質を分析しています。今回はクスノキの成分やヨウ素の性質などを調べました。

「温泉水を分析してみよう！榕菴先生と長寿の水？」は津山高専の廣木一光先生とゼミ生の皆さんによる実験です。「分析」という言葉を生み出した榕菴は、『舎密開宗』の中で各地の温泉や冷泉を紹介し、分析しています。榕菴の実験を再現することで『舎密開宗』に記された分析方法が紹介されました。

今年度の教室も午前・午後の二回開催し、たくさんのお小生が参加しました。皆さん積極的に実験に参加し、終了後は「面白かった」「化学に興味を持った」といった声を聞くことができました。なお、今回の実験のまとめを、資料館のホームページとフェイスブックで公開しています。ぜひご覧ください。

津山高専廣木先生、「化学コミュニケーション賞」受賞

平成24年から毎夏、江戸時代の化学書からの再現実験教室で講師にお迎えしている津山工業高等専門学校(高専)の廣木一光先生が、3月に一般社団法人日本化学連合の選定する「化学コミュニケーション賞」を受賞されました。受賞理由は『舎密開宗』の再現実験を通じた津山洋学の普及・啓蒙活動」とのことです。資料館にとっても、嬉しいことでした。

子ども観光大使 in 津山開催

2月27日(土)、岡山県子ども観光大使実行委員会主催による、「岡山県子ども観光大使 in 津山」が、資料館で開催されました。最初に化学実験に取り組んだ後、展示で津山の洋学について勉強しました。終了後には大倉館長から観光大使の認定証が一人一人に手渡され、参加した子供たちは少し緊張した面持ちで受け取っていました。





津山洋学資料館夏季企画展

言葉の海へ

—オランダ語
翻訳に挑む—

会期：7月2日(土)～
9月25日(日)

江戸時代の蘭学者たちが、西洋の学術・文化を知ろうとした時、まずオランダ語を学ぶ必要がありました。

杉田玄白は、『解体新書』の原書『ターヘル・アナトミア』の翻訳に取り掛かった時の心境を「誠に艱難なき船の大海に乗り出だせしが如く」と回想していますが、当時の蘭学者たちの心境を象徴的に物語った言葉ではないかと思えます。まだ辞書も刊行されていない時代、オランダ語を訳すことは、本当に大変な作業だったことでしょう。

しかし、蘭学者たちはそんな困難をもとめせず、オランダ語の大海へと漕ぎ出していきました。一語ずつ意味を理解して知識を得、そして新しい言葉をいくつも作り出しました。こうしたオランダ語受容の歴史を振り返る時、長崎のオランダ通詞にはじまり、江戸の蘭学者へ伝えられ、師から弟子へと受け継がれた長い研究の蓄積があったことが分かります。

本展では、『蘭学事始』をはじめ、『訳鍵』『和蘭文典』などの辞書や文法書からオランダ語研究の歴史を展示するとともに、約半分のスペースを使って、津山の洋学者たちが考案した言葉(述語)をパネルにして紹介しました。

観覧された方からは、様々な参考書がある現代でも外国語を修得することは難しいのに、当時の蘭学者たちはどれほど努力をしたのだろうという賛嘆の声や、普段何気なく使っている言葉が、実は津山の洋学者の作ったものであることへの驚きの声が多く寄せられました。最後になりましたが、本展の開催にあたっては多くの方にお力添えを賜りました。厚くお礼申し上げます。

久原躬弦関係資料、 化学遺産に認定!!

津山出身の化学者久原躬弦の関係資料が、化学遺産に認定されました!

化学遺産とは、公益社団法人日本化学会の化学遺産委員会が、化学と化学技術に関する資料のうち、特に貴重なものを認定するもので、資料の次世代への継承や化学に関する学術と教育の発展を目的に行われています。2005年に化学遺産委員会が設置され、2010年から昨年まで、33件の資料が認定されています。

今年新たに化学遺産となった5件のうち、第35号として当館が収蔵する「明治期日本の化学の先駆者・化学会初代会長 久原躬弦関係資料」10点が選ばれたのでした。



久原躬弦は

津山藩医久原
洪哉の長男と
して1855

(安政2)年に二階町で生まれました。上京して箕作麟祥、箕作秋坪に学び、大学南校へ入学。東京大学理学部化学科を第1回生として卒業し、1878(明治11)年には化学会(現在の日本化学会)の創設にあたり、初代会長となります。

その翌年からアメリカのジョンズ・ホプキンス大学に留学し、帰国後は東京大学教授、次いで京都帝国大学教授となり、亡くなるまで勤めています。1912(明治45)年には、菊池大麓の後を受けて第4代総長にも就任しました。日本における理論有機化学の先駆者として、その業績は高く評価されているのです。

3月26日(土)に同志社大学を会場に行われた認定証授与式には、久原家ご後裔の久原宗雄さんと当館館長が出席。同日行われた公開講座では、下山純正元館長が「日本化学会初代会長 久原躬弦と津山」と題して講演を行いました。



認定証

認定資料

- 東京大学第一回卒業証書
- 東京大学理学士学位記
- 理学博士學位記(以上3点は久原家資料)
- 東京大学卒業生写真(以下7点は館蔵資料)
- 有機化学講義録4冊
- 実験録
- 欧州の大学視察日記・視察メモ
- 著書『立体化学要論』(自筆校正入り)
- 著書『女子教育化学と鉱物』(同)

東京大学 第1回卒業証書 (久原家資料)



有機化学講義録(館蔵)

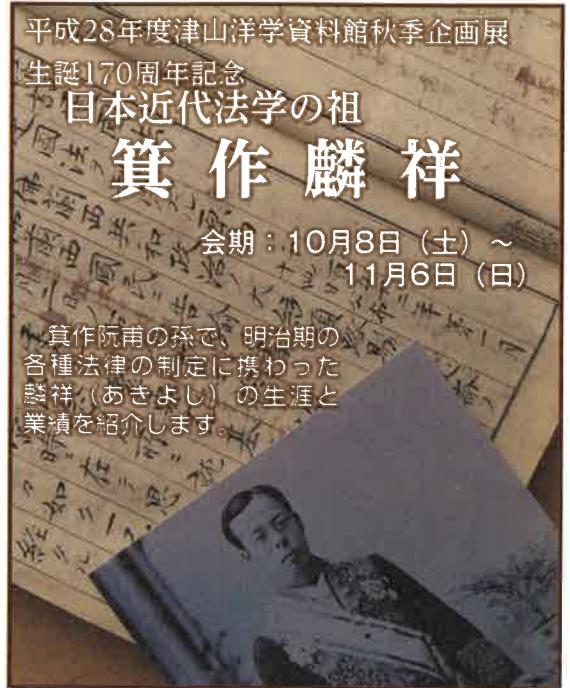
これら館蔵の久原躬弦関係資料は、2003年に当館友の会が、京都大学の久原躬弦胸像を修復したことをきっかけに、京都大学から移管されたものです。

INFORMATION

平成28年度の催し物(予定) 企画展

4月	<ul style="list-style-type: none"> 企画展「日本とロシアー箕作阮甫・秋坪の対露交渉ー」 23 第71回文化講演会「出島における黒坊について」 講師：東京大学史料編纂所共同研究員 イサベル・田中・ファンダーレン先生 23 友の会総会 (休館日：18・25日) 	2/20～ 箕作阮甫・秋坪の対露交渉 ～6/19
5月	(休館日：2・6・9・16・23・30日)	
6月	(休館日：6・13・20・27日)	
7月	<ul style="list-style-type: none"> 企画展「言の葉の海へーオランダ語翻訳に挑むー」 30 親子でヒンデローペンの作品づくり 31 ヒンデローペン絵付け体験教室 (休館日：4・11・19・20・25日) 	7/2～ 言の葉の海へ オランダ語翻訳に挑む ～9/25
8月	<ul style="list-style-type: none"> 6 江戸時代の化学書からの再現実験教室 27 からくり人形作りとストリートオルガンの演奏実演 (休館日：1・8・12・15・22・29日) 	
9月	<ul style="list-style-type: none"> 10～11 友の会創立35周年記念研修バス旅行 (休館日：5・12・20・21・23・26日) 	
10月	<ul style="list-style-type: none"> 企画展「日本近代法学の祖 箕作麟祥」 (休館日：3・11・12・17・24・31日) 	10/8～ 生誕170周年 箕作麟祥 ～11/6
11月	<ul style="list-style-type: none"> 企画展「海田の医家 山田家の人と学問」 19 津山洋学資料館・上廣歴史文化フォーラム 講師：岩下哲典先生・大久保健晴先生・下山純正先生 19 友の会創立35周年記念祝賀会 (休館日：4・7・14・21・24・28日) 	11/19～ 山田純造生誕180周年 海田の医家 山田家の人と学問 ～2月下旬
12月	<ul style="list-style-type: none"> 友の会史跡見学会 (休館日：5・12・19・24・26・29～31日) 	
1月	<ul style="list-style-type: none"> 学芸員による研究報告会 (休館日：1～3・10・11・16・23・30日) 	
2月	(休館日：6・13・14・20・27日)	
3月	(休館日：6・13・21・22・27日)	

■企画展 ■催し物 ■講演会 ■友の会



平成28年度津山洋学資料館秋季企画展
生誕170周年記念
**日本近代法学の祖
箕作麟祥**
会期：10月8日(土)～
11月6日(日)

箕作阮甫の孫で、明治期の各種法律の制定に携わった麟祥(あきよし)の生涯と業績を紹介します。

津山洋学資料館・上廣歴史文化フォーラム

海外留学の志 ー波濤を越えた津田真道の思いー

日時：平成28年11月19日(土)
14:00～16:00
会場：津山洋学資料館 GENPO ホール

- 基調講演：14:00～15:30(各先生30分)
「文久2年出発の幕府オランダ留学生一行についてー榎本武揚・津田真道・西周を中心にー」
東洋大学教授 岩下 哲典 先生
- 「津田真道の政治構想ーオランダ法学と近代日本の建設ー」
慶應義塾大学准教授 大久保健晴 先生
- 「津山における津田真道の顕彰をめぐる」
津山洋学資料館元館長 下山 純正 先生
- ディスカッション：15:30～16:00(30分)

ご利用案内

- 開館時間／9:00～17:00
(入館は16:30まで)
- 休館日／月曜日(祝祭日の場合はその翌日)
祝祭日の翌日・年末年始(12月29日～1月3日)

■入館料／	一般	高校生・大学生
	300円 (240円)	200円 (160円)

※()内は30名以上の団体料金です。
※小学生・中学生は無料です。



〒708-0833 岡山県津山市西新町5番地
TEL(0868)23-3324 FAX(0868)23-9864
URL <http://www.tsuyama-yougaku.jp>



交通のご案内

- JR津山駅から東循環ごんごバス南廻り線で12分、西新町下車徒歩2分
- 中国自動車道 津山ICから車で15分・院庄ICから車で20分